

## 研究計画概要

助成年度・種別	2017年度 一般研究助成
研究代表者	玉井克哉
所属	東京大学先端科学技術研究センター
研究テーマ	営業秘密の刑事的保護に関する法理論と実務の研究
研究計画概要	<p>本研究では、まず何よりも、平成27年の改正不正競争防止法により刑事罰が大幅に強化されたことを受け、米国、韓国など先行する諸外国に対して、国際的な「制度間競争」においてわが国が敗北しないよう、営業秘密防護の実務の改善を期するため必要な事項を検討し、法政策に関する具体的な提言を行う。営業秘密は無形の情報である上に、犯罪者に自覚が乏しく、しかも場合により外国の企業や政府が関与しているため、立件が極めて困難である。被害企業による告発、警察による捜査、検察による起訴、そして裁判による量刑といった実務的な面についての対応が未だ緒に就いたばかりの部分もあるので、必要な事項を解明し、刑事手続の改善のため必要な提言を行う。</p> <p>それとともに、本研究では、企業の有する営業秘密と、国家的見地から流出を防止すべき秘密情報との相関関係の理論的解明を行う。特許出願すべき公開情報、純粋な私的営業秘密、国家的な特定秘密の関係が、わが国では未整理のままである。本研究においては、特許出願、営業秘密と特定秘密の関わりを的を絞り、棲み分けの原則を示すことを、目標とする。</p>
選考委員からのコメント	<p>知的財産の保護は、日本経済の存立にとって重要な問題であるにもかかわらず、対応が遅れている。特に、営業秘密の海外への漏洩問題は、国際的な犯罪組織の標的になっており、対策が急がれるが、不正競争防止法の刑事罰強化の対応は不十分なものである。刑事手続面での実務的な対応も含めて提言を行おうとしている本研究の意義は大きい。国家秘密の保護との比較も視野に入れているので、より一層、成果が期待される。</p>